

## 「道州制と広域連係を考える講演会」 (倉敷会場)

開催日 平成 22 年 2 月 15 日

場 所 倉敷アイビースクエア  
「フローラルコート」

### ◆事例発表

演 題：「中四国文化の集い

『ビッグバンドフェスティバル』」

発表者：岡本 昌 氏

ただ今ご紹介いただきました、岡山県アマチュアビッグバンド連盟の岡本と申します。よろしく願いいたします。

今日は、道州制と広域連携を考えるという講演会ですが、私は 12 月 20 日に行われました「倉敷ジャム～ビッグバンドフェスティバル」での経験や中四国の方との交流について少しお時間をいただきましてお話したいと思います。

それでは、スライドが出ていると思います。

ちょっと長いのですが、「おかやま県民文化祭 第 18 回中四国文化の集い」というものです。「倉敷ジャム ビッグバンドフェスティバル」ですね。ちょっとご説明しますと、第 7 回となる「県民文化祭」にも位置づけられていました「中四国文化の集い」ですが、中四国の 9 県の文化交流で、文化活動の発表機会の拡充と文化意識の一層の高揚を図るという目的で、先ほどもご説明がありましたけれど、各県が持ち回りで開催しているものです。昨年、12 月にこの倉敷の地で開催されたわけでありまして。そのメインとなりますのが、私たちのジャズというジャンルなんですけれど、「倉敷ジャム」と銘打ちまして、12 月 19 日、20 日と、この美観地区の周辺で行われたわけです。

それです、このビッグバンドフェスティバルですけれど、次のスライドを見ていただいたらよく分かると思いますが、中四国 9 県から集まりまして、倉敷芸文館ホールでコンサートを行いました。岡山県からは、「カウント・ハード・ジャズ・オーケストラ」、これは地元倉敷の老舗のオーケストラですけれど、今回の県民文化祭の運営委員でもございました松井さんがリーダーになっているバンドです。

そして鳥取県からは「鳥取音楽座スペシャルユニット」8 人の小編成のグループ、広島からは「尾道 B B S クリエーション」21 人、そして、山口県から「H.C.B カウントエース」14 人です。徳島県「ザ・サニー・サイド・ジャズ・オーケストラ」は大所帯で 29 人、お隣の香川県からは「SKG ジャズオーケストラ」。そして、愛媛県からは「オルケスタ・セトウチ」、楽しいバンドです。高知県からは「フェイク・ジャズ・オーケストラ」。この 9 県のバンドの方が一堂に集まりました。

それで、これが当日のプログラムです。その次の写真が、ご説明しましたバンドの方々の写真です。後ろに赤色とか青色とか少し見えると思いますが、これは綿なのです。綿を

上からぶら下げましてそれに照明を当てると、もともとは白色なのですが、すごくきれいなのです。そういう舞台演出をしていただきました。

今回の県民文化祭では、音楽ばかりでなくて、綿を使いましたイベントも併せて行われました。こちらの方は私は全然かかわっていないので詳しいことはお話できないのですが、綿を使ったアートとか、綿を使った手作りの体験とか、白小豆を使ったプロジェクトとか、そういう音楽以外の催し物もありまして、かなり盛りだくさんのイベントがございました。

次に、抜粋ですが「中四国文化の集い実施要項」についてご説明いたします。趣旨としましては、中四国9県の文化交流を実施することによりまして、文化活動の発表の機会の拡充と文化意識の一層の高揚を図るとともに、圏域の歴史と風土から生まれた伝統文化を引き継ぎながら、新たな生活文化を創造することを目的とするものです。主催は、中四国9県が共同主催して、開催地の県及び県教育委員会が主管することとなっております。開催地は中四国9県が持ち回りとし、9県で協議の上決定されます。そして、各県は、原則としてそれぞれの種目に1団体を派遣することとなっております。今回で18回を数え、中四国9県を丁度2巡したことになります。

先ほどから、ビッグバンドとかジャズとかいろいろと申しておりますが、皆さんはご存じでしょうか。少し説明しますと、ビッグバンドというのはジャズというジャンルの音楽を演奏するグループなのです。今はテレビとかラジオとか映画とかで有名にはなっているのですが、ちょっと説明しますと、今そこに写真で出ていますけれども、編成の楽器は、サクソとトランペットとトロンボーン、そしてリズムでドラムとギターとベースとピアノ。だいたい20人くらいの人数で演奏しているわけなのですが、いわゆるクラシックという楽団と違いまして、20人でも多いのです。ジャズの世界の中では、大きなバンド、文字通りビッグバンドなのです。編成では、2人とか3人とか4人とか、トリオとかカルテットとかいろいろと名前があるのですが、ジャズの世界では、ビッグバンドというのは一番大きいバンドなのです。

例えば、有名なところで、アメリカのグレンミラー楽団とかカウントベーシ楽団とか、ご存じの方がいらっしゃると思いますが、いわゆるダンス音楽とか歌謡曲のバックのバンドとか、そういうふうにイメージしていただいたらいいかと思います。今はなかなかテレビでは見掛けないと思うのですが、一昔前の歌謡曲のバンドで、歌手の後ろでは必ずビッグバンドというものがありました。彼らはそれが本業ではなくて、本当はジャズを演奏するのが音楽のスタイルなわけです。それをビッグバンドといいます。このビッグバンドは、数え切れないほどあるわけですが、この岡山でも、わが岡山県アマチュアビッグバンド連盟には、今12の団体が所属してまして、県内を中心に活動しています。

皆さまのお手元の資料にパンフレットがあると思うのですが、右側が「ジャズストリート」といまして、芸文館でのビッグバンドのコンサートの最中に、この美観地区のいろいろな所で小編成のバンドがジャズを演奏しているところです。1日中演奏していて、どこに行ってもジャズが聴けるといふように、倉敷中、美観地区中がジャズの街になったという2日間だったわけです。

このジャズストリートは、1日千円のパスポートのようなパスがありまして、何十カ所という所で演奏されていますから、これで一日中ずっと回れるわけです。これを見に行く

人がかなり多くて、県外からの人もいっぱい来られます。初めてジャズを聴かれる方もたくさんおられて、「倉敷でいつもこんなものをやっているのか」と聞かれて、「いや、今年初めてなんです」と言ったら、「これは毎年やってほしいね」という話もありました。ビッグバンドとジャズストリートとを同時に開催しまして、これはかなり成功したなと思います。

次に、交流会ですが、普通は演奏の後に打ち上げというのがよくあるんですけど、県外から前の日から来ていただきまして、前夜祭ですね、これを盛大に繰り広げまして、この日はもう朝からえらくテンションが上がってきまして、それでもう交流会の時は、二次会、三次会みたいな雰囲気なんです。もう十分に堪能していただきまして、たった2時間の交流会だったのですが、中四国のジャズメンが一同に会し情報交換や懇親を深めるなど、凝縮されたいい交流会をさせていただきました。

私たちが黄色い法被を着ているのが見えますか。後でご説明しますが、国民文化祭のPRも兼ねていました。これがその模様です。

それでは、次ですけど、ここからが本題になります。私たちは岡山県アマチュアビッグバンド連盟ですけど、今回、演奏という形は取りませんで、演奏は先ほどの松井さんのところのカウント・ハードさんにお任せしまして、裏方に徹しようということで準備をさせていただきました。その仕事ですが、そこに「バンドコントロール」という名前があると思います。この話をいただきましたのが今年の春ごろなのですが、12月にビッグバンドフェスティバルをやるということで県の方から打診がありまして、それから私たちはどうやればいいのか、準備も何も分からない状態でスタートしました。前準備は、県の方々には本当に骨を折っていただきまして、バンドの勧誘や駐車場とか宿泊とか、そういう前準備をしていただきました。

県外から来る人は、倉敷の街を何もご存じありません。それで私たちはない知恵を絞りまして、8つのバンドが来るのですけれども、その8つのバンドに1人ずつ担当を決めてその方々のお世話をしようではないかという案が出ました。どういうことをやったかといいますと、お手元の資料では少し見にくいとは思いますが、表にまとめてあります。前日までに連絡を取ってホテルで待ち受けまして、リハーサルをする。そして宿泊場所まで戻って、交流会へ案内する。翌日は、またホテルまで迎えに行く。本番直前のリハーサルをする。そして本番に案内するという、すべての行程を通してご案内するという役を、1バンドに1人付けました。

私が担当したのは島根県ですけど、3日ほど前に電話でご案内しましたら、「本当に助かります」と言われました。「倉敷に来たことはあるにはあるが、実際に芸文館や美観地区のことはよくわからないので、どうしようかと思っていた」と言われるので、「それは大丈夫です。私がちゃんと案内します」と言ったのですが、実は私は美観地区でよく迷うのです。それで、来られる前日にとりあえず下見で歩いてみました。倉敷物語館とかアヴェニューとか地蔵院とか。ただ、これでもなかなかうまくいかなかったのです。芸文館の中はものすごく複雑になっているので迷いまして、バンド20名の方を路頭に迷わすようなことをしてしまいました。過密なスケジュールで、本当に5分とかそういう移動時間で案内しないとイケないのでとても大変だったのですが、メンバーの方は過密なスケジュールが「なにか売れっ子になったような気持ちになりました」と言われて喜んでおられ、救

われた気がしましたし、本当にプラス思考でいいなと思いました。

そんなこんなで無事に2日間ご案内できたことは、こちらも勉強になりましたし、交流や連携にはこうした裏方の役割が欠かせないと感じました。島根県の方から「大変お世話になりました。あそこまでしてくれるところはないですよ」というようなことを言われまして、一生懸命に取り組んだことが良かったかなと思っています。そうやって無事に「中四国文化の集い」を終えました。

「中四国文化の集い」を終わりました、いろいろと課題もありました。県の方といろいろな話をしながら進めてきたのですが、連携事業においては、行政と民間のどちらが何をするのかという役割分担を明確にしておくことが重要であると感じました。どちらもやらなかったり同じ事をやったり。また、十分な事前準備というのが絶対に必要だと思いました。事前準備といっても、何をしたいのかわからない状態でやりましたが、シミュレーションをして道に迷わないようにするとか、この駐車場はどうかなとか、本当にこれはシミュレーションをしないと成功しないなと思いました。

そして、次の「おもてなしの心」というのは、これを仕事と思ってやったのではダメだな、本当にイベントを成功させよう、そのためにおもてなししようという強い思いとボランティア精神というのがないと県外の方をおもてなしできないなという気がしました。他県のバンドの方たちといろいろ話をしたのですが、岡山の方は本当に優しいですねと言われました。交流会の後に居酒屋に行かれたらしいのですが、その小さな居酒屋にバンド20人が行ったのもうお客さんがいっぱいになって、その大将も「先に言ってくれていれば用意してたのに」と言っておられました。気持ちよく対応されたそうで、食材がなくなるまで食べたらしいです。さすがに観光地・倉敷ということで、県外の方をおもてなしする精神というのがあるのだなという気がしました。これは、われわれも皆さま方も同じだと思いますが、地域をあげて県外の方をおもてなしする心というのがあれば、交流もスムーズにいくと思います。

そして、私たちは音楽をやっています、音楽というものはスポーツと違っていて、何歳からでも、そしていつまででもできるのです。今回このアマチュアビッグバンド連盟には、下は中学2年生です。デビューは小学6年生でしたが、小学6年生がトランペットで、大人顔負けのジャズのソロを取ります。そんな方もいれば、最年長は81歳か82歳のバリトンサクソの方なのですが、もう孫とおじいさんです。そんな方々が、同じ団体にいるのです。そうすると、何が起こるかということ、その若い子がひどく怒られるのです。家では親がなかなか怒らないようなことを、バンド内では怒るのです。怒られた方も結構効くみたいで、こういうのがしつけかなと思っています。親でも言ってくれないようなことを言ってくれるというのが、この文化団体ではないかと思っています。スポーツでは年齢の近い者ばかりが集まってしまっているんで、なかなかそういうわけにはいきません。親と子、子と孫くらい年齢が離れているメンバーが一緒にいますから、礼儀とかそういうことを私もたくさん教えていただきました。

いろいろとお話をしましたけれど、今年岡山県では国民文化祭が開催されます。10月30日から11月7日まで、わがビッグバンドは、11月7日に、マービーふれあいセンターでコンサートを行います。出演バンドについては、今募集をかけているところで、大体決まりました。これも楽しみにしていただきたいと思います。県民文化祭は毎年あるのですが、

国民文化祭は、おそらく次に来るのは47年後です。今回これに力を入れて、ぜひ成功させたいなと思っております。皆様のご協力、よろしくお願いいたします。

なかなかうまくしゃべれなかったのですが、このへんで終わりにしたいと思います。今回、事例発表ということで、中四国文化の集いを経験しまして、広域連携について、ご参考になったかどうかわかりませんが、お話ししました。本日はどうもありがとうございました。